

代表質問 (5)、補正予算の審査から

生活者ネットワーク
暮らし続けたいまちを
市民と共につくろう!!

大友 かく子
石田 ひろこ

質問 放射能汚染対策について、簡易測定器を追加購入し、平成24年度は精度の高い測定器をリースすることは評価する。貸し出しも検討すべきだが、課題が多いのなら、空間線量の測定を市民と協働で行ってはどうか。また、石神井川の弥生橋付近は、川底に土を残して自然河床の護岸整備が実施されている。川底の測定に取り組みないか。

回答 保護者などの要望を踏まえ、臨時の測定を行い、子どもがよく利用する公共施設を中心にきめ細かく実



市で購入した放射線測定器

施した。石神井川は管理者である東京都の判断にゆだねられている。

質問 給食食材の測定を3学期から取り組めなかった理由と、平成24年度も公立認可保育園と小学校で年1回の測定となった経緯は。

回答 国が実施を予定している学校給食モニタリング事業の基準を踏まえ、検査対象校の選定、検査方法等を計画した。

質問 ささまざまな意見がある中で、文部科学省作成の副読本を配布する理由は。
回答 児童生徒がみずから考え、判断し、放射線被害から身を守るための資質能力を身につけさせる指導が

必要である。夏季休業中に指導研修会を開催し、学校への理解、啓発に努める。
質問 雨水を活用する指針水循環や地下水保全に関する条例制定を提案する。
回答 西東京市公共施設雨水利用検討会を設け、公共施設での雨水利用の促進や取り組みを検討している。

質問 地域福祉コーディネーターの増員に当たって、試行的に配置された2年間の活動状況と相談の内容は。
回答 環境、高齢者、まちづくり、障害、子ども関係等の相談があった。問題の本質は解決しないが、時間をかけコーディネーターがかかわることで、少し状況が変わったり、状況が一步步進んだと思われるケースもあった。

質問 高齢者生活状況調査

の内容と、結果の活用について見解を問う。
回答 従来の75歳以上のほかに、65歳以上のひとり暮らし高齢者も対象とし、閉じこもりがちな方や支援につなげる必要がある方を早期に見出し、孤立化を防ぎ、住み慣れた地域で安心して継続して生活ができるよう、さまざまな見守りの仕組みにつなげていきたい。
その他質問等
◇柳聖園のがれき受け入れについて
◇子どもの権利に関する条例について
◇障害者就労支援施設の拡充について



民主党西東京
平成24年度始動！市長任期
最終年、西東京市の課題は

坂井 かずひこ
石塚 真知子

質問 市長の政治姿勢について。マニフェストの達成状況、また残された課題は。
回答 6分野38項目を掲げ、「雨水災害対策事業」「保育事業の充実」等、他市に比べて遜色のない事業を行ってきた。「健康都市宣言」も行い、「中学校完全給食の実施」の準備も進んでいる。「子どもの権利条例の制定」「広報・広聴事業の充実」等の課題が残っている。

質問 はなバスの運行事業の具体的な見直しの内容は。
回答 乗降調査結果や計画

質問 道路整備の状況、民間路線バスの運行計画の変更状況を踏まえ検討する。利用料金の適正化についても、市民が公平な恩恵を享受できるように検討を進める。
質問 大きな公共施設がない東伏見駅周辺の帰宅困難者対策は。
回答 対策として早稲田大

質問 学との協議に着手している。
質問 保育園における居室面積の基準緩和の該当団体であるが、本市の判断は。
回答 保育環境、保育の質への影響が懸念され、面積基準の緩和は見送る。

質問 武道・ダンス必修化について。重篤な事故の起きやすい柔道の指導について安全対策をどう考えるか。
質問 名古屋市では倒れて頭を打つ可能性がある足技や、乱取りは行わない独自の方針があるが本市では。
回答 危険性の高い足技の禁止や乱取りの練習方法等、校長会と連携して安全に柔道の指導が行える環境整備を進める。

質問 高齢化している自治会・町内会への加入促進や支援について問う。
回答 モデル地区を選定し、各自自治会・町内会の高齢化や活動の低迷に対して加入



質問 田無駅から会場への無料のシャトルバスを配備する予定である。遠方からの来場者用に72台分の駐車場を整備する。
質問 行財政改革の推進、受益者負担の適正化を図ることの必要性について市長の見解を問う。
回答 改革の先頭に立ち市民の皆様のご理解をいただくことが不可欠な努力をする決意である。

質問 促進等の支援を行う。
質問 スポーツ祭東京2013において、バスケットボール競技会場として利用される総合体育館への来場者への配慮は。
回答 田無駅から会場への無料のシャトルバスを配備する予定である。遠方からの来場者用に72台分の駐車場を整備する。
質問 行財政改革の推進、受益者負担の適正化を図ることの必要性について市長の見解を問う。
回答 改革の先頭に立ち市民の皆様のご理解をいただくことが不可欠な努力をする決意である。



補正予算の審査から

第1回定例会では、平成23年度補正予算について、一般会計のほか、4つの特別会計の予算を、3月2日及び5日に予算特別委員会で審査しました(保谷駅南口地区第一種市街地再開発事業特別会計予算については駅周辺再開発等特別委員会で別途審査)。
ここでは、補正予算の審査内容についてお知らせします。

【説明】一般会計の補正予算額は4億5千640万円で、歳入歳出予算の総額からそれぞれ減額するものである。
【主な質疑項目】

- 健康診査、がん検診の今年度の目標と実績の分析及び市民に対する受診啓発について
- 子ども手当支給費の現況届の現状について
- 障害者総合支援センターの建物総合管理委託料半減の内容、見積もりの確認、利用者懇談会の意見、運営の課題について
- 富士町分庁舎解体工事費の実績の半減と、都の見積もりの積算の精度、作業の精度について
- 下保谷森林公園整備事業の国・都の補助金減に対する課題・問題、補助の優先順位について
- 家庭芝生化による水はけ、養生期間等校庭の使えない時期の把握について
- 完全給食設備整備の給食室改修工事と給食室の狭さ、調理員の環境について
- 小中学校空調設備設置工事のガス方式決定の電気方式とのインシヤルコストの比較の根拠、個別コントロール等運転方式、震度に対する安全性、リース契約、入札について

会計区分	補正前の額	補正額	計
一般会計	696億3,820万円	△4億5,640万円	691億8,180万円
国民健康保険特別会計	183億8,012万円	△7,398万円	183億614万円
下水道事業特別会計	40億1,268万円	△1億6,248万円	38億5,019万円
介護保険特別会計	109億5,035万円	1億6,038万円	111億1,073万円
保谷駅南口地区第一種市街地再開発事業特別会計	9億1,624万円	5億2,097万円	14億3,721万円
後期高齢者医療特別会計	34億7,322万円	△4,711万円	34億2,611万円

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計額と一致しない場合があります。